

南天白通信 REOプロジェクト 広報版 第8号

12月4日(金)から10日(木)までの人権週間の中で、皆さんが見つけた友達の良さを紹介するシリーズ第2弾。今回は、2年生の皆さんが書いてくれた内容を紹介します。



【Aさんについて】

- Aさんは、みんなに優しく、私が困っているときにいつも助けてくれるところが尊敬できます。私もAさんや、たくさんの人を助けられるような人になりたいです。

【Bさんについて】

- Bさんは数日前、私が学校で体調を崩してしまったときに、保健室に連れて行ってくれました。すごく私のことを心配して声をかけてくれました。

【Cさんについて】

- Cさんは、席が私の前で、わからない問題を教えてくれたり、大量のプリント類を私の分までまとめて渡してくれたりしてくれて、ありがとうございます。

【Dさんについて】

- Dさんは、掃除で人数が少なかったときに、掃除を手伝ってくれました。
- Dさんは、僕が水筒を外に忘れたとき、すぐに走って取りに行ってくれた。

【Eさんについて】

- Eさんは、私が体調が悪いとき、「大丈夫？」と気づかせてくれた。私が悩んでいるときも、相談に乗ってくれる。

【Fさんについて】

- Fさんは、最近、授業中寝ないで、きちんと真面目に机に向かって勉強をしているので、すごいなあと思った。ちょっとぬけているところもあって、面白い人です。そのまま頑張ってもらいたいと思います。

【Gさんについて】

- 僕のクラスは暴れている人が多いのですが、Gさんは、これはやったらダメだなというところを見たら、見過ごすのではなく、ちゃんと注意できるところがすごいと思います。

【Hさんについて】

- 私はすごく短気でうるさくて、みんなに迷惑かけているけど、Hさんは、私がケンカしているとき止めてくれるし…いつも迷惑かけてると思うから、「ありがとう」って言いたいです。

【Iさんについて】

- Iさんは、授業で分からなかったところや、聞き逃したところを教えてくださいました。
- Iさんは、日直が休みのとき、代わりに黒板を消していた。

【Jさんについて】

- Jさんは、もめごとになってしまい、謝ったとき、優しく許してくれました。すごく心の広い人なんだな、と思い、尊敬しています。いつもありがとう。

☆ 今回、思ったことは、『困ったとき、つらいとき、苦しんでいるときに、手を差し伸べられたことは、皆、ちゃんと覚えているんだな』ということでした。

手を差し伸べた人は、何気なくしただけかもしれないし、もしかしたら自分がしたことさえ覚えてないかもしれません。でも、ちょっとしたことで、つらい気持ちの中にいる人にとっては、とてもうれしく感じるんですね。

前回の広報版で『だれにでも平等に優しく接することの難しさ』について書きました。その課題を解決するヒントが、ここにもあるのではないかと思います。

そんな大したことをする必要はない。ポイントは、相手がつらいと思っている…そこに気付いてあげて、ちょっとだけ助けてあげることでないでしょうか。

もっとも、そこに気付くことが難しいのかもしれませんが…。どうしたら気付いてあげられると思いますか？